



[原の宿場を歩く](#)

[KIMG0091](#)

8:30JR片浜駅は100名余りの人で賑わっていた。三島宿、沼津宿とシリーズ最終の原宿を歩く。



[KIMG0092](#)

東海道原宿 東木戸(見附)跡
東木戸は原宿の西町、東町、大塚の三町で形成され、西と東の境に木戸を設けて、宿場の入口とした。西木戸は高島酒造の西側道路北側に設けている。東木戸から西木戸まで、原宿の東西の距離は640間(2.2Km)あったとのこと。



[原の宿場を歩く](#)

[原の宿場を歩く](#)

時折に現れた季節の草木の花が一行を歓迎してくれました。



[原の宿場を歩く](#)
 松陰寺と白隠禅師は、「ぬまづの宝100選」です。

[原の宿場を歩く](#)



[原の宿場を歩く](#)

「さざれ石」
 学術的には「石灰質角礫岩」などとよばれる。
 君が代の歌詞を続けてみていくと、「さざれ石の巖となりて」という文章になっていますが、歌詞中のさざれ石（細石）は文字通り、細かい石・小石の意であり、それらの小石が巖（いわお）となり、さらにその上に苔が生えるまでの過程が、非常に長い年月を表す比喻として用いられている。



[原の宿場を歩く](#)

沼津・観光まちづくり市民の会代表梅沢弘氏は今回の3宿場町での交流会を通じて、市民による観光まちづくりの研究を続けていきたいと結んだ。
 三島市ふるさとガイドの会、ぬまづ観光ボランティアガイド、原・浮島観光ボランティアガイドの会のメンバーはそれぞれのお宝を更に磨き上げていくことでしょう！
 そのおもてなしガイドにて観光客を更に楽しませてくれるでしょう。

沼津・北駿地区担当　生きがい特派員　福田和男